

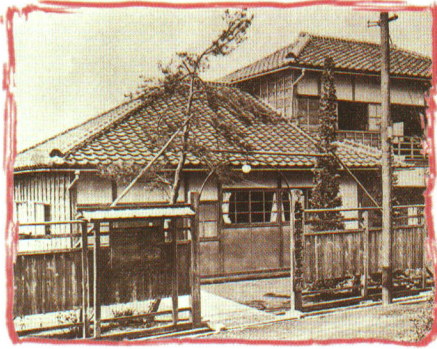
矢 吹町はその昔、「行方野」と呼ばれる広大な原野を中心とする土地でした。藩政時代には奥州街道の宿場町として栄えましたが、その水利の悪さからなかなか開発が進まず、豊かな自然が残されたままになっていました。

三千ヘクタールにもおよぶ自然豊かな原野は、明治時代になると、宮内庁管轄の御料地となり、明治二十四年には棲息する雉子や野兔を対象とした宮内省直営の御猟場「岩瀬御猟場」となりました。

国内では明治初年に東京の植物御苑(現新宿御苑)に鴨猟の御猟場が設けられたのが最初で、その後、明治十五年に日光御料地に鹿猟の日光御猟場、明治二十二年に岩瀬御料地に雉子猟のための岩瀬御猟場が設けられました。その後も赤城山や天城な

どの各御料地内に御猟場が設けられ、大正十四年に廃止されるまで使用されました。

当 時の日本では、御猟場は皇室の狩猟場であり、一般市民の狩猟は禁止されていました。



大正14年 宮内省御猟場が廃止された後に設置された矢吹国営猟区事務所

当時の岩瀬御猟場には、常時3千羽の雉子が棲息し、当時の御猟場看守たちは毎日丹念に見廻りをし、雉子の棲息状況の観察と密猟の取締りにあたりました。



宮内省御猟場の看守

皇族をはじめとして政府高官、外国政府要人など国内外の名士が多数猟を楽しんだ。写真は伏見宮が出猟する時の様子である(大正13年)